資料1

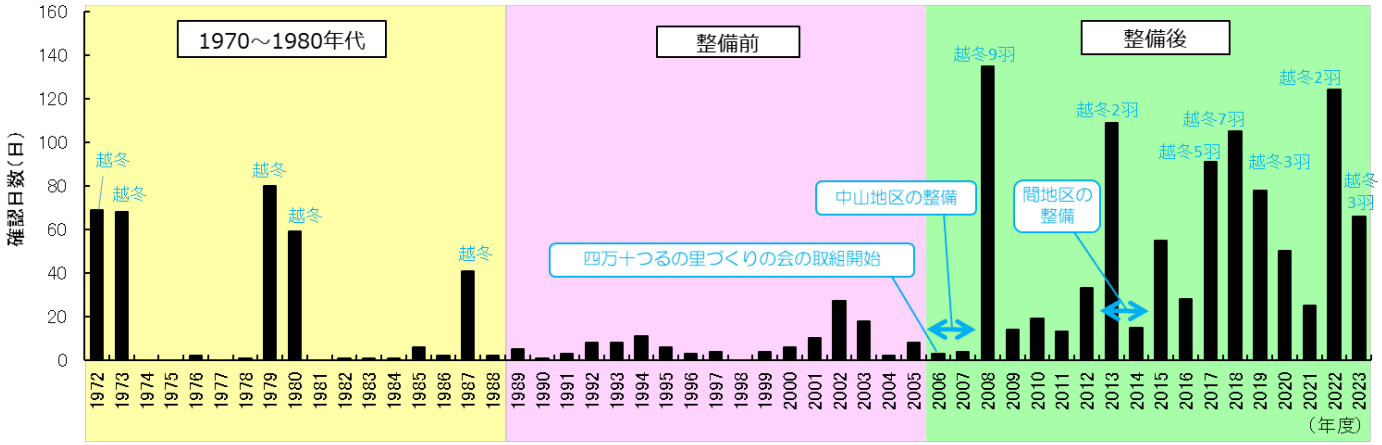
四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について

四万十川流域におけるツル類の飛来状況

四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」の取組を行っています。取組を開始してから四万十川流域におけるツル類の確認日数、越冬は増加しています。

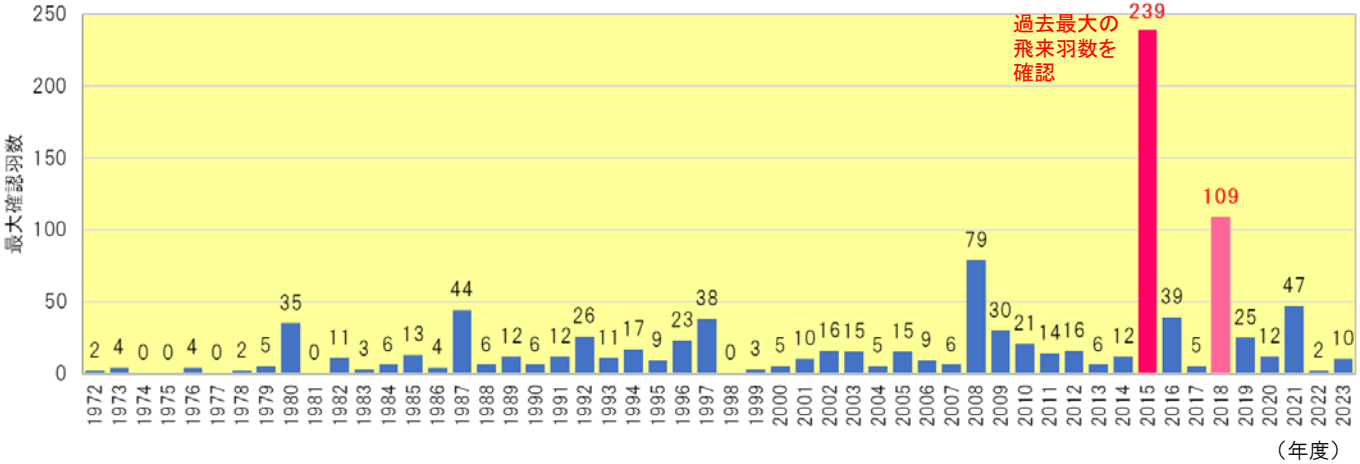
2017年度にナベヅル等5羽、2018年度にマナヅル7羽、2019年度にナベヅル3羽と3年連続で越冬を確認できましたが、2020年度、2021年度は越冬しませんでした。2022年度は、3年ぶりにナベヅル2羽が越冬しました。2023年度は、昨年度に引き続き、ナベヅル3羽が越冬しました。しかし、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。

2013年度に河道内の人工的に整備した
中山箇所で越冬したマナヅル2羽



四万十市におけるツル類の確認日数の推移
※2023年度は2024年1月31日時点の記録

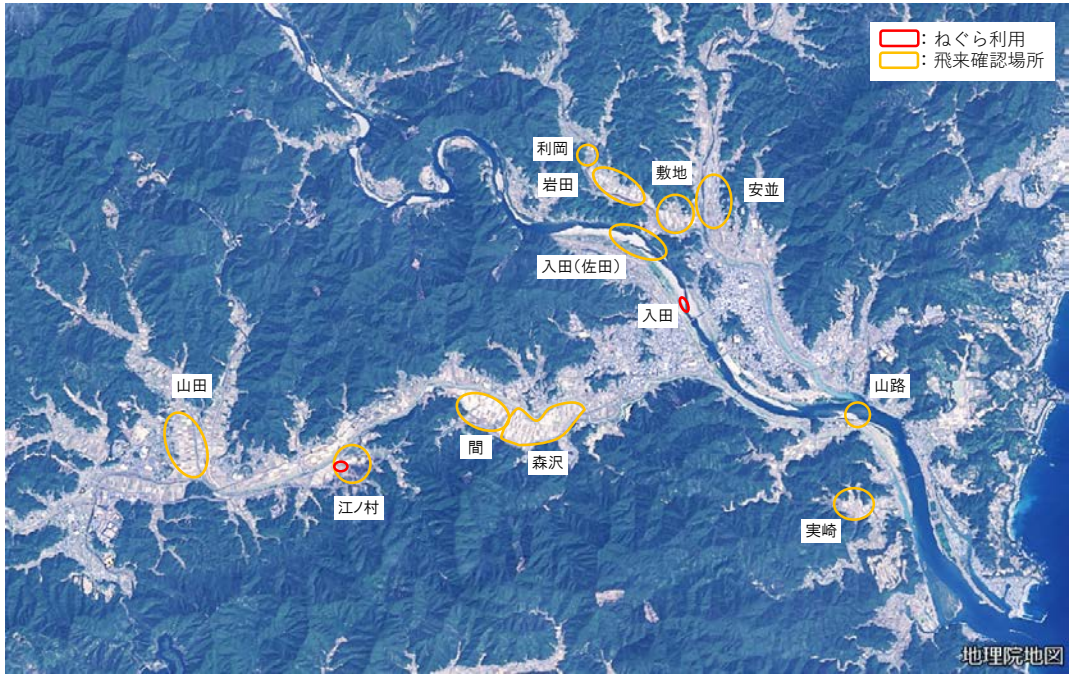
観測史上最大数が飛来した
2015年度のナベヅルの状況



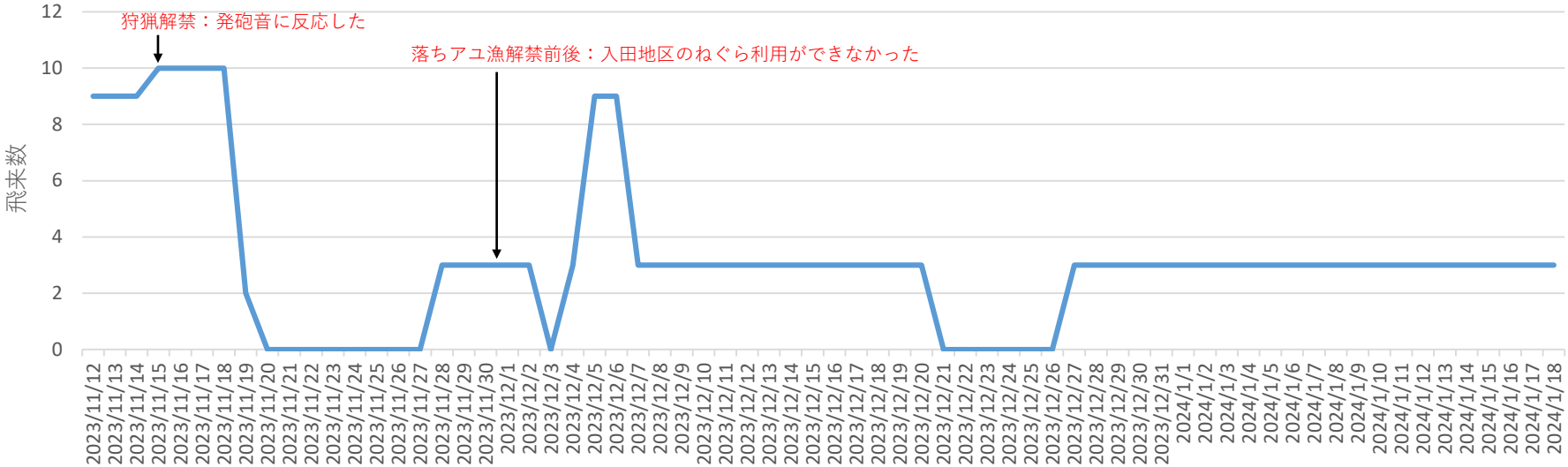
四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移
※2023年度は2024年1月31日時点の記録

今年度のツル類の飛来・生息状況

- 2023年11月12日にナベヅル6羽が江ノ村地区へ飛来し、今期の初飛来を確認しました。例年の飛来時期に比べると、やや遅い記録となります。
- 今年度、ナベヅルがねぐらとして利用したのは、入田地区（四万十川の砂州）、江ノ村地区（代替ねぐら環境として、冬期に水を張った田んぼ）でした。
- 入田地区では、落ちアユ漁解禁前後に、河原への人や車両の進入のため、ナベヅルがねぐらとして利用することができませんでした。
- 猟銃の発砲音へのナベヅルの反応として、距離が近い場合は、音の発生と同時に飛び立ちが確認されました。
- ナベヅルの近くに車が停車したり、ナベヅルを撮影しようとした場合に飛び立ちが確認されました。また、日傘をさした人が通過した際も、強い警戒を示し、ナベヅルの飛び立ちが確認されました。



空中写真：「空中写真データ」（国土地理院）(https://cyberjapandata.gsi.go.jp)をもとに作成



今年度のツル類の飛来状況

今年度のツル類の飛来・生息状況

敷地地区の荒く起された水田で採食するナベヅル
（2023年11月15日16:00台撮影）

入田地区の砂州にねぐら入りするナベヅル
（2023年11月15日17:00台撮影）

山路地区の砂州の浅い水辺で休息するナベヅル
（2023年12月1日17:00台撮影）

近距離で停車する乗用車により飛び立つナベヅル
（2023年12月1日10時台撮影（森沢地区））

今年度のツル類の飛来・生息状況

ナベヅルが採食によく利用した荒く起された水田（利岡地区）

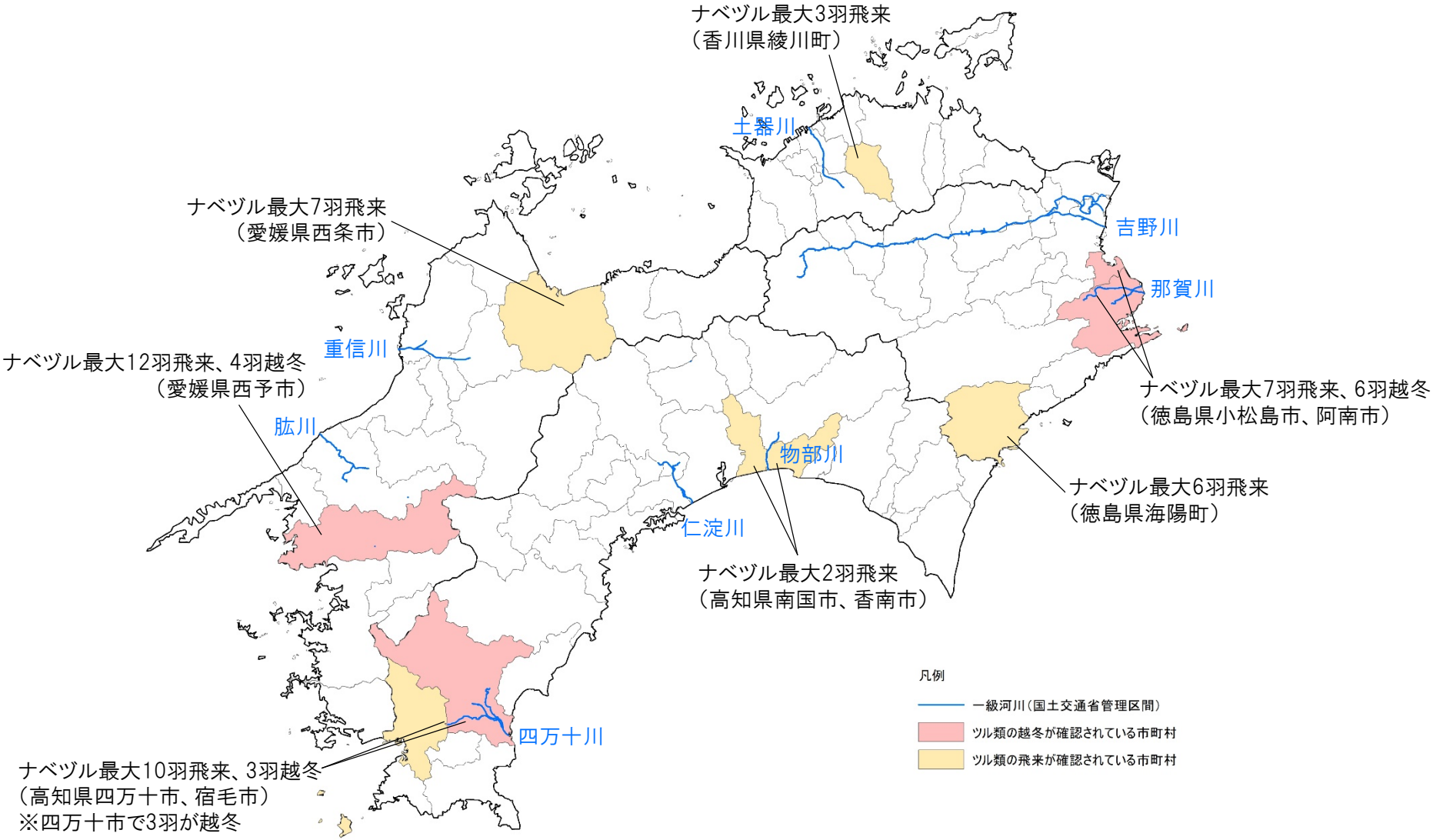
二番穂がイネ（藁）ごと刈り取られた水田（森沢地区）
※イネ（藁）ごと刈り取られているため、ナベヅルは利用しなかった

荒く起された水田で採餌するナベヅル
（2023年11月15日7:00台撮影（利岡地区））

荒く起された水田で採餌するナベヅル
（2023年11月30日10:00台撮影（江ノ村地区））

（参考）四国におけるツル類の飛来・越冬の状況（2023年10月～2024年1月）

今期（2023年10月～2024年1月）は、四国において、徳島県小松島市、阿南市、海陽町、香川県綾川町、愛媛県西条市、西予市、高知県南国市、香南市、四万十市、宿毛市でナベヅルの飛来が確認されています。



四国におけるツル類の飛来・越冬の状況（2023年10月1日～2024年1月31日）

「国土数値情報（行政区域データ）、（河川ラインデータ）」（国土交通省）(https://nlftp.milt..go.jp/ksj/)をもとに作成